

iPad の活用

～楽しみながらリハビリを！ リハビリでのiPadの活用の一例を紹介いたします～

最近、理学療法の中で、iPadを活用する機会が多くなりました。と、言っても自分はオモチャのような利用をしています。iPadは、オモチャ以上に子どもたちの興味を引くことがあります。

様々なアプリに興味を示す利用者様もいます。

アプリを立ち上げなくても普通の画面で、指を「シュッ、シュッ」と滑らせて画面が変わることに興味を持つ利用者様もいます。

アイコンをタッチしてアプリを立ち上げるのが楽しくて、立ち上げては、下のあるボタンを押してアプリを閉じることを自分で発見して、それを繰り返す利用者様もいます。

そのiPadに集中している時に、姿勢を整えたり、良姿勢で体幹や下肢の支持性の向上させるようにして、楽に楽しめる体勢を作っていく時があります。

右上の利用者様は、段差を昇ったり、捕まり立ちが出きるようになってきました。iPadでは、電車のアプリを操作したり、見たりすることが大好きです。

そこで、サドル付の歩行器で立位を取りながらiPadを利用しています。指で軽快に操作しながら、好きなアプリを探します。操作が難しくなると声を出して指さししながら、手伝いを求めます。集中してくると身体の方も程よく力が入り、身体や下肢で支持する力が出てきます。立位の持続力の向上も見られます。電車が走る操作を繰り返して行ったり、様子をゆっくり見ているあいだに、身体や下肢、肩周辺を整えていきます。

身体の方が整ってくると、歩行練習の開始です。気分もより良好になっているので、歩行練習もスムーズに行うことが出来ます。歩行時の身体や下肢の支持性、歩行距離にも変化が見られます。歩行練習後も、iPadを使いたい

為、がんばりすぎてしまう場面も見られますが…。

理学療法では身体の機能の機能向上を図る為、いろいろな場面を設けることがあります。自分の動きを意識したり、または無意識に学習できるようにしながら進めます。子どもの場合、出きることなら楽しみながら、進めていきたいと考えます。そのためか今は、iPadを利用する場面が多くなりました。

ただ最近、言われている通り、子どもには小さい頃に体験する立体感や質感、重量等を感じる力も必要なので、普通のオモチャと交互に利用するようにしています。

(PT 岸野)



～ATACカンファレンスは「テクノロジー」と「コミュニケーション」をキーワードに、社会の中で困難さを抱える人々を支援する技術と考え方を、多くの人と共有するために1996年から毎年開催されています～
今年のATACのテーマは「比べて観る」でした。

近年の技術の進歩はとても速く、新たな支援の道が広がっている一方、ツールを中心とした形ばかりの支援に陥りがちな現状について改めて考えることが挙げられていました。支援や教育において見失ってはならないものを考えなおすという「基本にかえる」ことだったり、基礎を学びつつも未来を見通すため ロボットなどの最新技術を通して「先を観る」ことなど、多岐にわたるテーマがありつつも 大きな一つの会場でみんなが共有しながら進んでいたのも良かったと感じました。

また、私はATACカンファレンスにも参加させていただき、「重度重複障害の子どもの生活・コミュニケーション支援」について受講しました。iPadやKinectを使った最新の事例を紹介していただきつつも、やはり講義の中で投げかけられていたのは、コミュニケーション機器を使うことで自分でコントロールできることが少しでも増えるのか？(親がいなくても2時間一人でいられる など)、自分が楽しいと思えることを一人でできるようになっているのか？、機器を使うことで逆に選択の幅を狭めていないか？などでした。主体性を子どもたちに持ってもらうため、私たちは何に気をつけなければならぬか、改めて考える機会を得ることができました。

とは申しませんが、iPad、いいですよね！障害のある子にとって使いやすい・使いにくいには置いておいて、子どもの目がキラキラする魅力があります。そして、子どもと接する大人(保護者や支援者)も ついつい一緒になって楽しんでしまうことも多いですよね。

当センターの利用者様にとって魅力的なアプリは既にピコピコニュースで多く紹介されていますので、今回は私たち大人にとって有益なものを少し紹介したいと思います。(実はカンファレンスの中では、読み書きに問題のあるお子さん向けのアプリとして紹介されていたものです。でも、とっても面白いですよ！)



AudioNote

人の話を聞き漏らさず、大事なところをメモするのって大変ですよね？このアプリは音声を録音しながら、大事な部分にタグ付けをすることができます。録音した音声を後で聞くと、タグ付けされた部分をすぐに再生できるので、振り返りも簡単です！人の話を聞き漏らさず、大事なところをメモするのって大変ですよね？このアプリは音声を録音しながら、大事な部分にタグ付けをすることができます。録音した音声を後で聞くと、タグ付けされた部分をすぐに再生できるので、振り返りも簡単です！



SimpleMind+

いわゆるマインドマップのアプリです。作文を作る際に有効ですよ、と教えていただきました。「思考を外在化するものですが、キーワードを あーでもない、こーでもないといくつい並べ替えたり、キーワードを繋げてあげることで、楽しく文章の素材ができていきます！



UPAD Lite

メモ帳アプリです。このアプリの良いところは、台紙(テンプレート)にカメラや保存してある写真を使うことです。大事な書類やテストのプリントなどを写真に撮って、その上にテキストボックスを置いて文字入力したり、プリントを拡大した状態で手書きで書き込むことができ便利です。

こうした身近にある一般向けのテクノロジー(アルテック)の利用によって、専用の福祉機器を購入しなくても、様々な学習・生活支援ができるようになっており、私たちの使い方次第で世界が広がっていく！、と感じました。

(ST 豊田)